

神木山報

shibokusanpou

一隅を照らそう
3月号290号
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp

塵も積もれば

住職 中島 有淳

「犬も歩けば棒にあたる」など、昔懐かしい「犬棒かるた」は誰でも知っていますが、その中に「塵も積もれば山となる」という句があります。この句の意味は文字通り「ほこり」や「小さなゴミ」も積もると山となってしまう……といったことでしょう。この格言を聴くと自分の散らかった部屋を思い起こし「アアかたづけなければ……」とか、街中の「溢れかえったゴミ集積場」を連想します。しかし、これがそんなに単純な格言ではなく、何かを喻えたものだとしたらどうでしょう。

実はこれはルーツを探ると、大乘仏典の『大智度論』（『大品般若経』の注釈書）であると知りました。

原文では

譬えば微塵を積みて山と成せば

移動すると得べきこと難きが如し

というのです。

これは「譬えば細かな粒子（微塵）が集積して山となると、もはやそのまま動かすことができないようなものだ」という意味でしょう。

これは何を意味するかというと

「衆生が貪りや怒りの心を起こすと、その報いは大変重いものとなるから、彼岸（悟り）にいたることは難しい」という事態をたとえたものです。

つまり、「私たちはさまざまな煩惱を起こしながらも生き、その心を起こすたびに意識するとしなやかかわらず、それに対応した報いを受ける。その報いが、積もり積もって重いものとなる。その苦しみでこちら岸から安らぎの向こう岸へ渡ることが困難である」という喩えだそうです。

さらに、

「そのような訳だから少しずつでも煩惱の心を起こさないよう努めはげみなさい」という意味になります。

釈尊は自らの心を深く見つめ、お悟りを開かれました。ですから心のありようを明らかにすることは、私たち仏教者にとって大きな課題です。この格言は仏教を實踐する上での基本的姿勢を提示し、大変重要です。

過去にあったもの（煩惱）をなくしなさい。未来に何もものもないようにしなさい。中間（現在）においてあなたが何ものにもとらわれないならば、あなたは安らかに振舞う人となるでしょう

—— スッタニパータ

過去から現在との関係でなく、現在と未来との関係が大切なのです。あるべきようは、自分自身がいかに正しい目標を設定していけばよいかを常に明確にし、毎日励んでいきたいものです。

*本稿は仏教伝道協会編・新々みちしるべ——菩薩シリーズ——を参考にまとめました。

折りふしのはな

あおもじの花（青文字）

青文字・小手毬・雪柳の

三種を生けましたら

こでまりゆきやなぎは華やかに

純白の花を咲かせました

青文字の

淡いクリーム色の蕾は

とてもかたくて

いつ咲いてくれるの？

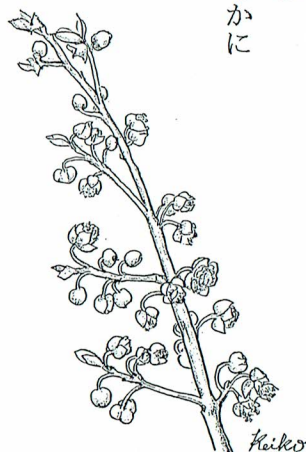
お花さん 開いてね と

声をかけています

滋味溢れる

静かな 青文字の花です

（遊）



月例行事案内

◎八 日 午後二時

薬師如来祈禱会 観音経読誦

◎十二日 午後二時

智泉院法要日（於・日本橋茅場町）

◎十八日 午後二時

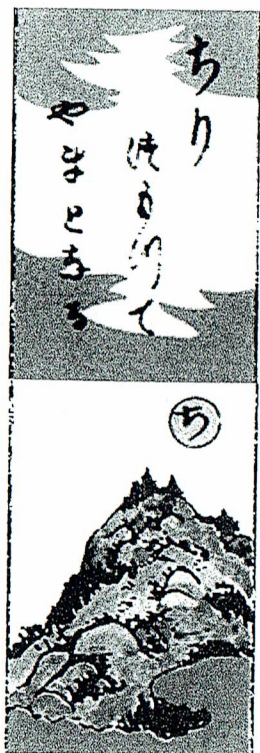
観音経読誦法要（於・神木観音堂）

◎二十八日 午後二時

不動明王護摩供修行

*毎朝六時より公開で朝のお勤めをしております

ご都合のよろしい時にはご一緒にどうぞ



あとがき

ビリンデ

○二月は、平昌冬季五輪で盛り上がりました。開会式前より北朝鮮の動向は心配でした。日本のメダル獲得数は史上最多で、若いアスリート達の、秒を削るひたむきさや演技に魅入りました。

○三月。東日本大震災から七年。大切な人を突然亡くした人や、被災者はこの日までどのようにこの事実と向き合い、過ごしてきたのでしょうか。仏教が心に届く行為や言葉は何かと常に考えます。○ある本に、日本の寺院の鐘の音は、ゴーン・ゴーン（GONE）と響いて「浄土へいこう」「あの世へいこう」と聞こえるのに対して、キリスト教の鐘の音はカーン・カーン（COME）と鳴り「こっちに来い」というふうに聞こえる、と。

○地球温暖化対策（パリ協定）では今後どんなに努力しても二、三〇〇年から二、三〇〇年までに海面が70cm～1.2m上昇するとか。どんな排出抑制対策が可能なのか。暖衣飽食の日本。どこまでがまんでできるのか。

○今年は寒い冬でした。でも春は来ました。

合掌